

ともに学び、ともに伸びよう、大森で！

校 長 西 村 伸 二



都立大森高等学校のホームページをお訪ねくださり、ありがとうございます。

本校は、府立第二十三中学校として昭和十八年に開校し、今年度七十五年目を迎えます。

この間校訓、「敬愛」「誠実」「努力」のもと、人間尊重の精神を育て、ルールを守り責任を果たす生徒、自ら目標を定め、積極的にチャレンジし粘り強くやり抜く生徒の育成を目指して教育活動を行ってまいりました。

また、同窓会並びにPTA、PTA OB会からの支援体制も厚い中、東京都教育委員会より「ゆめナビプロジェクト研究校」の指定を受け、教育環境の一層の充実を図っています。

皆さまに大森高校のことをよく知っていただきたいと願っています。

そのための手段として、学校見学会並びに学校説明会や授業公開週間にどうか本校にお越しください。生徒の様子や学校の雰囲気等を皆さまの五感をフルに活用していただき、「大森高校って良さそう！」と感じていただけたら幸いに存じます。

さて、ここで先日新入生に話したことをお示しします。

高校生活のスタートに当たり、「思いやり」と「感謝する」心について話します。

人は一人では生きていけません。今の自分が周りの多くの人々に支えられて生きていることを理解してください。身の周りに目を向けてみてください。野菜であれ、肉であれ、それらを食材として成り立たせるために、多くの人々の関わりがあります。多くの生き物の犠牲があります。「食べること」すなわち「生きること」は、数多くの支えの上に成り立っていることに気付いてほしいのです。あらゆるものに感謝する気持ちを大切にしてほしいのです。

私は「感謝する」気持ちが、他者への「思いやり」を大きくするのだと信じています。

皆さん全員の「思いやり」の心が大きくなればなるほど、本校での学校生活がより良いものとなるはずです。何より自分自身の「心や人間性」が豊かになります。どうか「思いやり」と「感謝」する心を意識しながら、学校生活を送ってください。

皆さんの中には、携帯電話を持つ人もいますが、

例えば、友だちと連絡を取りたいと思ったとき、メールやラインの返信がすぐに来な

くて、やきもきすることもあるでしょう。

相手は相手で事情があるのです。何か急ぎの用事の最中だったりしてすぐには返信できないことも、当然あるはずです。

私たちは「自分の思うようになっていない他人の言動」に接したとき、相手の事情にまで思いをめぐらす余裕もなく、一方的にイライラを募らせることがあります。

しかし、その「当然こうあるべきだ。」という思いは、自分一人の勝手な「思い込み」でしかないのかもしれない。

先ほども申し上げましたが、人は「誰とも関わり合うことなく一人で生きる。」ということはできません。

普通に暮らしていても多くの人と接するものです、そもそも私たちの生活は、直接顔を合わせることもない人も含めてさまざまな人の働きのうえに成り立っています。そこでお互いに気持ちよく暮らしていくためには思いやりの心が不可欠です。

「無財の七施（むざいのしちせ）」という仏教の教えがあります。

ここには、お金やものがなくても周りの人に喜びを与えることができる七つの方法が示されています。その中の一つに「言辞施（ごんじせ）」という「他人に対して優しい言葉をかけること。」があります。

言葉は人と人との関係を円滑にするコミュニケーションに欠かせないものです。

言葉一つで相手を喜ばせたり、逆に悲しませたりする場合があります。

相手を思いやる優しい言葉で接していきましょう。「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」など、何事にも挨拶や感謝の言葉がお互いの理解を深める第一歩です。

いろいろと申し述べてきましたが、これからの三年間をどう過ごしていくか、日々の生活の中で、「今、為すべきことは何か。」を常に考えながら、願わくは皆さん一人一人が大きな志を抱き、自らの意思と力で勉強に励み、部活動や委員会活動に積極的に参加し、学力的にも、人間的にも大きく成長を遂げられることを期待しています。

大事なのは、始めること、そして一度始めたら続けること、辛くても頑張れば頑張ったなりの達成感を味わうことができるのです。その達成感はとても気持ちの良いもので「根拠のない自信」が「確かな自信」に変わります。「確かな自信」は、将来を築く礎になります。さあ皆さん、一緒に始めましょう!!